

事業所における自己評価（公表）

公表 2020年 12月28日

事業所名 ライシャワ・クレマ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	0	定員に対する広さは、十分とっている
	②	職員の配置数は適切であるか	7	0	職員数の減少しているため、今後の事を考えると個別担当を養成する必要がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2	2	バリアフリー化は、今後の課題である。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっているか	7	0	新型コロナの影響で消毒と換気の徹底をしている。清掃活動の徹底とアルコール綿でのおもちゃ等の除菌を続ける。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか	7	1	部会で確認しながら実施している。職員のPDCAについて理解を深めている。全体研修や部研修の実施をしていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	10	0	プログラムのアンケート調査を毎年お行い、プログラムの改善を行っている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	0	内容を職員間で検討し改善内容をホームページ上に公開している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8	0	第三者評価を行い、改善内容をスタッフ間で話合っている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	毎週定期的にケースカンファレンスを行っている。
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	9	0	保護者と話し合っって作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	0	標準化されたツールを利用している。

の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	0	各家庭にとって必要な支援を適切に行っているが、再度ガイドラインの内容を確認する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9	0	児童発達支援計画にそった支援を行っている。保護者に対して周知していく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	0	事前に計画を立て行っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8	0	学期毎にプログラム内容の見直しをしている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	9	0	子どもの実情に合わせて計画を立て実行している。

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	0	事前に打ち合わせをして活動している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	10	0	終了後、振り返りや次回に向けての話し合いの機会を設けている。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	0	個別の記録、グループの記録、業務日誌等々日々記録を徹底している。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	10	0	前期と後期で計画の見直しをしている。
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9	0
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	10	0	親子の必要に応じて連携をしている。
㉓		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	8	0	子どもの必要に応じて、医療・教育等の機関と連携している。
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	9	0	子どもの必要に応じて連携体制を整えていく。

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育園や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	9	0	保育園、幼稚園、幼稚部との間で情報交換を行っている。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	10	0	インテグレーションしている子ども達の定期的な支援を行っている。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	0	全国盲ろう難聴児協議会やCDSジャパンの研修会等に参加している。発達支援センターの専門家から定期的に助言を受けている。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8	0	4歳児以上で実施している。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	3	1	園長が参加している。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10	0	個別支援や定期的な家庭訪問を通して、共通理解を深めている。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	9	0	本学園では40年以上前から両親ガイダンスとして行っている。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10	0	入学時に説明をしている。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	9	1	保護者からのアセスメントをもとに個別支援計画を作成し、同意を得ている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	10	0	保護者から相談等がある場合は、その都度適切に対応している。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10	0	保護者同士の話し合いの機会や卒業生やその保護者の話を聴く機会などを設けている。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	0	迅速かつ適切に対応している。

	⑳	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	10	0	月間の便りや PTA の会報、ニューズレター等の発信をしている。
	㉑	個人情報の取扱いに十分注意しているか	10	0	これからも注意し、配慮していく。
	㉒	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10	0	文字や絵カード、具体物を使って理解を深めている。
	㉓	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	7	1	運動会やバザー等に参加出来るように知らせている。
非常時等の対応	㉔	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	10	0	年度始めに防犯、緊急時対応や感染症対応の周知を行い、月に 1 回、火災と地震の避難訓練を交互に行っている。
	㉕	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	10	0	毎月 1 回、訓練を行っている。
	㉖	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	9	0	子どもの健康状態については把握している。
	㉗	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	10	0	対応している。
	㉘	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	6	共有はしている。今後、事例集を作成する。部会などで話し合う機会を設けていく。
	㉙	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	4	虐待に対する意識はあるが、研修の機会を今後作っていく。
	㉚	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	4	3	身体拘束については、研修をして理解を深めていきたい。